

平成30年度

学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業

まとめ



(障害者の生涯学習推進フォーラム)

平成31年3月

千葉県教育委員会



千葉県マスコットキャラクター「チーバくん」

はじめに

教育基本法第3条には「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」と生涯学習の理念が規定されています。一方、これまで障害のある方への教育施策は、特別支援学校等の学校教育の場を中心に展開されており、その生涯を通じ学ぶことのできる環境の整備・充実が求められてきたところです。

こうした中、千葉県教育委員会では、平成28年に施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（いわゆる障害者差別解消法）」の趣旨も鑑み、平成29年に「第2次千葉県特別支援教育推進基本計画」を策定し、重点的な取組の一つとして「卒業後の豊かな生活に向けた支援の充実」を掲げ、在学中のキャリア教育や職業教育の充実に加え、さわやかちば県民プラザや県立図書館等において、障害者のある方の学びの支援を実施してきました。

さらに、学校卒業後の障害者が社会で自立して生きるために必要となる力を維持・伸長・開発するとともに、共生社会の実現に図るため、今年度から文部科学省の委託を受け「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」を実施し、効果的な学習プログラムの開発や関係者の連携組織であるコンソーシアムの構築に加え、県内全域への普及を目的としたフォーラムを開催したところです。

本冊子は、当該事業における関係者の意見や、コンソーシアムやフォーラムにおいて配布した実践事例等の資料を、障害者に関わる方々と共有することで、障害者の身近な場所で生涯学習が実施される環境が構築されることを目的として作成したものです。今年度、本事業の実施に当たり御協力、御尽力いただいた皆様方に深く感謝申し上げますとともに、各市町村や関係機関が障害のある方への学びを提供する際の参考にしていただきますようお願いいたします。

平成31年3月

千葉県教育委員会

もくじ

はじめに

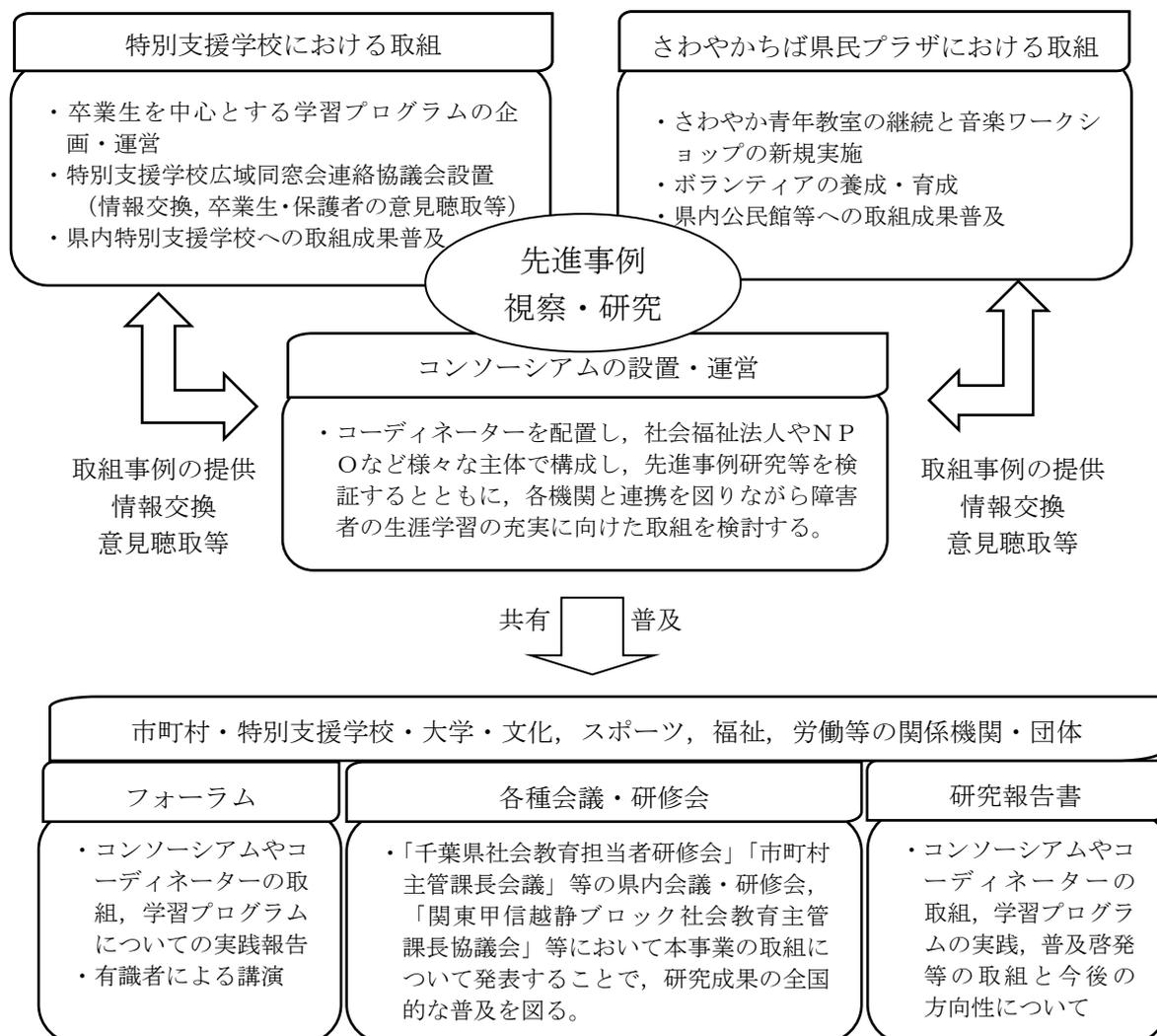
もくじ

1	平成30年度実践研究事業全体概要	1
2	障害者の生涯を通じた学びの充実のためのコンソーシアム	
	障害者の生涯を通じた学びの充実のためのコンソーシアムについて	3
(1)	第1回会議	4
	資料1～5, 参考資料1～2, 会議録	
(2)	第2回会議	41
	資料1～3, 会議録	
(3)	第3回会議	63
	資料1～4, 会議録	
(4)	第4回会議	87
	資料1～2, 会議録	
3	学習プログラム開発1 特別支援学校における取組	121
4	学習プログラム開発2 さわやかちば県民プラザにおける取組	139
5	障害者の生涯学習推進フォーラム	155
	配付資料, 参加者の状況とアンケート集計	

平成30年度

実践研究事業 全体概要

平成30年度学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業



1 連携体制の構築・強化

様々な主体から構成する「障害者の生涯を通じた学びの充実のためのコンソーシアム（以下、コンソーシアム）」を設置し、先進事例研究や情報交換を行うとともに、学習プログラムに関する意見や学習支援の在り方について協議した。

会議の中では、特別支援学校や県生涯学習センター（さわやかちば県民プラザ）における学習プログラムの内容について助言や検証を行うとともに、県内外の先進事例研究や関係者からのヒアリング、コンソーシアム委員相互の実践についての情報交換等を実施することで、連携体制を構築・強化することができた。

次年度もコンソーシアムを設置して協議することで、さらなる障害者の学びの充実を図りたい。

2 学習プログラム開発

学習プログラム開発については、先進事例の視察・研究や、コンソーシアム会議での意見を踏まえながら、特別支援学校及びさわやかちば県民プラザにおいて企画・運営を行った。その際、事業の企画・実施に当たっては、特別支援学校高等部等の学習指導要領等の趣旨を踏まえ、効果的な学習プログラムの開発、実施体制や連携モデルの構築等に取り組むことができた。

(1) 特別支援学校における取組

特別支援学校においては、県立特別支援学校市川大野高等学園を拠点にして卒業生や近隣在住の知的障害者を対象とした「生涯学習講座」を開催し、テニス、グラウンドゴルフ、ストレッチ体操、紅茶の楽しみ方に関する講座を実施した。地域の自治会やスポーツクラブの方に講師を依頼したり、内容に関して最寄りの公民館と連携したりしたことで、学校と地域社会の協働的な取組を推進していくきっかけとなった。参加者の満足度も高く、また参加したいという声が多くあった。また、指導者や関係者で「特別支援学校広域同窓会連絡協議会」を設置し、情報交換を図りながら、講座の内容や評価、今後の取組について協議した。

次年度は、市川大野高等学園が所在する市川市教育委員会とも連携しながら、より広域的に展開するとともに、特別支援学校だからこそできる内容を研究して講座を開催したい。

(2) さわやかちば県民プラザにおける取組

さわやかちば県民プラザにおいては、人生をより豊かに送り、人とのコミュニケーション能力や、物事をやり遂げる力を育成することを目的に、障害のある方でも演奏ができるよう開発されたヘルマンハーブを用いた楽器演奏体験型の講座（音楽ワークショップ）を実施した。参加者は、「さわやかおんがく隊」を結成し、一人一人がメロディーを奏でて音楽に親しむ喜びを感じ、演奏が上手になりコンサートで披露するなど達成感を味わうことができた。また、おんがく隊に隊長や副隊長を置き、リーダーの養成を図り、自主サークル化へ向けた支援も行った。さらに、公募したボランティアに対して、知的障害者への支援方法やヘルマンハーブ演奏についても研修を実施し、指導者の養成・育成を図った。

次年度は、他のサークルや吹奏楽団等との連携を深めるとともに、参加者がより積極的に地域行事に参加できるよう支援していきたい。

3 成果の普及・啓発

本事業の成果を普及するために「障害者の生涯学習推進フォーラム」を開催し、事業報告に加えて東京学芸大学名誉教授の松矢勝宏氏による記念講演等を実施した。

また、「千葉県社会教育担当者研修会」「市町村社会教育・生涯学習主管課長会議」等の県内会議・研修会で研究の進捗について報告するとともに、「関東甲信越静岡ブロック社会教育主管課長協議会」等において本事業の取組について発表するなど、研究成果を県外にも発信して普及を図った。

次年度は、あらゆる主体による障害者の学びに関する実践の事例発表やシンポジウムなど参加型のイベントに加え、各種会議や研修会において障害理解や青年教室の活動紹介等を実施することで、さらなる普及を図りたい。